

① 新屋温泉

「新屋には温泉は出ない!」
と言われていたのを、先
代の高橋松之助氏が
信念で掘り当てた
「奇跡の温泉」。
温泉施設は、秋
田県で生産され
た最後の天然ヒバ(樹齢250年)の巨木をふんだんに使用した総ヒバ造
りの純木造大型建築物。昭和9年に竣工した旧秋田大橋の橋門を移設
した入口が目印です。橋門には「昭和8年 東京石川島造船所 製作」と
書かれたプレートがついています。



② 大川散歩道桜並木

新屋駅から旧国立新
屋倉庫までの線路
がひかれていたところ。
現在は、新屋郷土会よ
り寄贈された桜の並木
道となっています。新
屋郷土会とは、在京
および東京近県在住
の秋田市新屋町出身者とその縁故者からなる団体です。



③ 秋田公立美術工芸短期大学実習棟一号楼ほか6棟 (旧国立新屋倉庫)



整然と並んだ倉庫群が美しい、美大(秋田公立美術大学)のシンボル。
昭和9年に、旧秋田県販売購買組合連合会(現JAあきた経済連)によっ
て倉庫として建てられました。また、昭和14年から平成2年までは、農林
水産省が米の受給調整に用いるための倉庫として管理していました。
当時、新屋町・土崎港町・秋田市の間で倉庫の誘致合戦が繰り広げら
れたというエピソードがあります。戦前期における木造建築物として貴重
です。現在は、アトリエももさだとして活用されています。国登録有形文
化財。新屋駅から徒歩約15分。

④ ほくとライブラリー新屋図書館(旧国立新屋倉庫)

旧国立新屋倉庫群のなかの1棟を、図書館の
一部として活用。見た目も中身も変わっ
ていますが、れっきとした
図書館です。

⑨ 新屋参画屋

昔は三角屋という下駄屋
だった建物。現在は地域
の交流の場として生まれ
変わっています。カフェ
も併設されており、お
いしい定食が食べ
られます。オススメ



⑤ 大川端带状近隣公園(さくら公園)



全長約1kmの公園。以前は十條製紙の工場の排水路でしたが、せせら
ぎや緑化の整備により一新しました。桜並木の美しい親水公園に生ま
れ変わっています。新屋桜橋から上流は埋め立てられ、春の花見から
秋の鍋っこだまで多くの人が集う緑の広場となっています。

⑥ 愛の鐘

午後5時になると「夕焼けこやけ〜♪」が流
れます。



⑦ 日吉神社山王祭

日吉神社は、「新屋の山王
さん」と呼ばれ、新
屋の総鎮守として、
町の人々の日常生
活に密着している
神社。祭礼は五穀
豊穰・集落安泰を祈
るもので、4月13日の
頭人差定式に始まり、
小祓式、大祓式、宵宮祭などを経て5月26日に本祭が行われ、5月27日の
傘納め式で終わります。市指定無形民俗文化財。新屋駅から徒歩約9分。

⑧ 余楽庵

秋田県農業三大人の
1人である森川源三郎
が晩年を過ごした草庵。
明治38年に上北手古野
の二見山に建てられたも
のを、いったん新屋比内
沢に移したあと、戦後にな
って現在地に移築したも
のです。森川は、二
見山で農業・植林に
力を尽くす一方で、質素儉約を旨として、非常に勤勉な生活を送ってしま
した。二見山の経営は評判となり、余楽庵には、遠くは九州からも学びに訪れ
るほどであったといひます。市指定有形文化財。新屋駅から徒歩約10分。



⑫ 馬つなぎの石

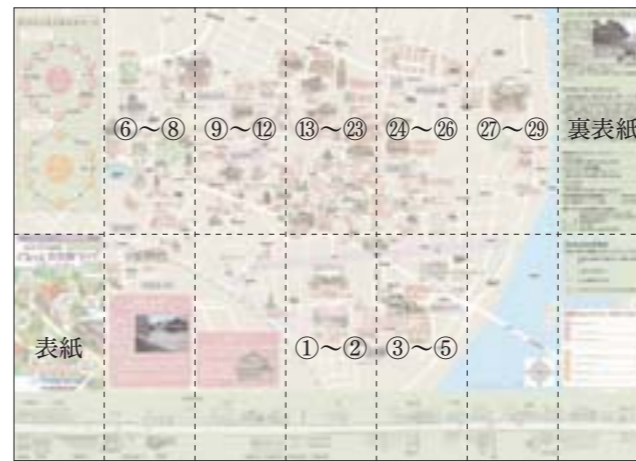
旧羽州浜街道は、馬車の往来が多かった
道。馬つなぎの石は、当時の風景を思い出
させてくれます。

⑬ 天龍寺の地藏尊



※解説文についている番号は、マップ表面のイラストについている
番号に対応しています。

番号の位置(マップ表面)



⑮ 旧黄金井酒造

明治43年創業
の旧酒造店。
「酒」と描か
れた大きな
亀の甲羅が、
屋根に飾られ
ています。



⑱ 高橋家住宅(新屋温泉社長宅)

天然秋田杉をふんだんに使った住宅。
主屋は約60年前に当時の新屋
町の棟梁達が集まって建てた
ものです。敷地の奥には、80
~100年前に建てられた
土蔵や離れ座敷、中庭など
が並びます。木材業を





⑱ 高橋家住宅 (新屋温泉社長宅)

天然秋田杉をふんだんに使った住宅。主屋は約60年前に当時の新屋町の棟梁達が集まって建てたものです。敷地の奥には、80~100年前に建てられた土蔵や離れ座敷、中庭などが並びます。木材業を



【新屋の清酒】

新屋での清酒醸造の起源は明らかではありませんが、宝暦4年(1754)の文献によれば、新屋の酒屋営業者は6軒ありました(『新屋郷土誌』)。新屋の砂丘にしみこんだ水は軟水で、舌触りが柔らかく、濁り・嫌な臭い・鉄分がないため、酒造りに大変適していました。また、昔は新屋に船着場があったことから、雄物川の上流で作られた良いお米が手に入りやすかったのです。

⑳ ひろ建築工房 (旧高彦製麺所)

昭和15年建築と推定される町家。寄棟造2階建て、その奥に両下造の平屋建、そのまた奥には2階建土蔵が続き、新屋ではあまり見ない特徴的な構成です。昭和30年代まで新屋うどんを作る製麺所でした。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約14分。



㉑ 栗田神社

栗田定之丞(1767~1827)を祀る神社。栗田定之丞は、18年間で300万本の松を海岸線に植えて、飛び砂から人々を救った植林家です。この植林に協力した2人が、天保3年(1832)、現





旧国立新屋倉庫群のなかの1棟を、図書館の一部として活用。見た目も中身も変わっていますが、れっきとした図書館です。



のを、いったん新屋比内沢に移したあと、戦後になって現在地に移築したものです。森川は、二見山で農業・植林に力を尽くす一方で、質素儉約を旨として、非常に勤勉な生活を送っていました。二見山の経営は評判となり、余楽庵には、遠くは九州からも学びに訪れるほどであったといいます。市指定有形文化財。新屋駅から徒歩約10分。



⑨ 新屋参画屋

昔は三角屋という下駄屋だった建物。現在は地域の交流の場として生まれ変わっています。カフェも併設されており、おいしい定食が食べられます。オススメはからあげ丼。店内には当時の面影を偲ぶ下駄が飾られています。



⑩ 葉隠れ墓苑

慶応4年(1868)の戊辰戦争で、援軍として秋田藩とともに戦った佐賀藩士が葬られている墓地です。戦死した佐賀藩武雄の馬渡栄助ら3名の墓石が建っています。昭和63年、戊辰戦争の時に秋田で殉難した佐賀藩士の霊を慰めるために、慰霊碑が建立されました。この場所は、佐賀古来の武士道にちなんで葉隠れ墓苑と名付けられました。葉隠れ墓苑の下にあるベンチに座ると、新屋の町を一望できます。



【戊辰戦争と新屋】
慶応4年(1868)に京都の鳥羽・伏見で始まった戊辰戦争。秋田藩は新政府側に加わり、庄内藩と戦いました。この戦いで、新屋村は兵隊たちの基地となり、村人たちの家は宿泊所や野戦病院として使われました。

⑪ 森九商店

江戸時代以来、醸造業が盛んな新屋表町の旧羽州浜街道(北国街道)沿いに位置する醸造元。表にはカッコいいポストがあります。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約9分。



⑫ 馬つなぎの石

旧羽州浜街道は、馬車の往来が多かった道。馬つなぎの石は、当時の風景を思い出させてくれます。



⑬ 天龍寺の地藏尊

【新屋のむかしばなし】
茨城県水戸市にある六地藏寺に、7体の地藏があります。言い伝えによると、6体のうち1体の地藏様が中国の唐にある金山寺が火事だということで、消火の手伝いに行っていた間に、村人たちが「六地藏に5体しかないのはおかしいだろう」と、仏師に頼んで1体を奉納したそうです。しかし、これで良いなとほっとしたところに、唐に火消しにいったお地藏様が戻ってきて、結局7体になったそうです。天龍寺のお地藏様も手伝いに行ったために7体になり、帰ってくる時ひとまわり大きな姿になって戻ってきたので、1体だけが大きいと伝えられています。



⑭ 旧勝平酒造(旧渡辺幸四郎宅)

持ち主の故・渡辺幸四郎さんにちなんで、現在は「わたこうさん」と呼ばれています。内部には、井戸・カマドなどが残っており、当時の生活をかいま見ることができます。また座敷の窓には、木の枝と鳥の凝った飾りがあります。



⑮ 旧黄金井酒造

明治43年創業の旧酒造店。「酒」と描かれた大きな亀の甲羅が、屋根に飾られています。



⑯ 旧石忠老舗



旧石忠老舗は、天保時代から藩主佐竹氏に落雁(もろこし)を献上していた老舗の菓子店。店舗は昭和40年代建築で、モダンな外観です。後部にある蔵は昭和8年頃の建築。現在は介護事業所「やさしい手秋田ももさだ店」が入っています。

⑰ 佐藤佐七商店

【新屋のしよっつる】
新屋のしよっつるは、昔新屋浜で獲れたハタハタやイワシを塩漬けにし、2~3年発酵させてどろどろになったものを搾った調味料です。藩政時代、藩主佐竹氏が新屋の大門助右衛門にしよっつるを醸造させた歴史がありますが、一般町民は古くから自家用に自宅で造っていました。しよっつる醸造業は、佐藤佐七商店が明治28年に創業したのが始まりとされています。



⑱ 高橋家住宅(新屋温泉社長宅)

天然秋田杉をふんだんに使った住宅。主屋は約60年前に当時の新屋町の棟梁達が集まって建てたものです。敷地の奥には、80~100年前に建てられた土蔵や離れ座敷、中庭などが並びます。木材業を営む家主が自ら設置した立派な門には、樹齢250年の天然ヒバが使われています。



⑲ 忠専寺の阿彌陀如来立像

銅鑄造の立像で、両手は「来迎印」と呼ばれる「人々を救うために阿彌陀如来が迎えにくる時の印相」を結んでいます。素朴な像容で、頭部を特に大きくしたのは礼拝者に慈顔の印象を深くするためだと言われています。よく見ると、確かに顔が大きい!市指定有形文化財。(普段は公開しておりません)新屋駅から徒歩約16分。

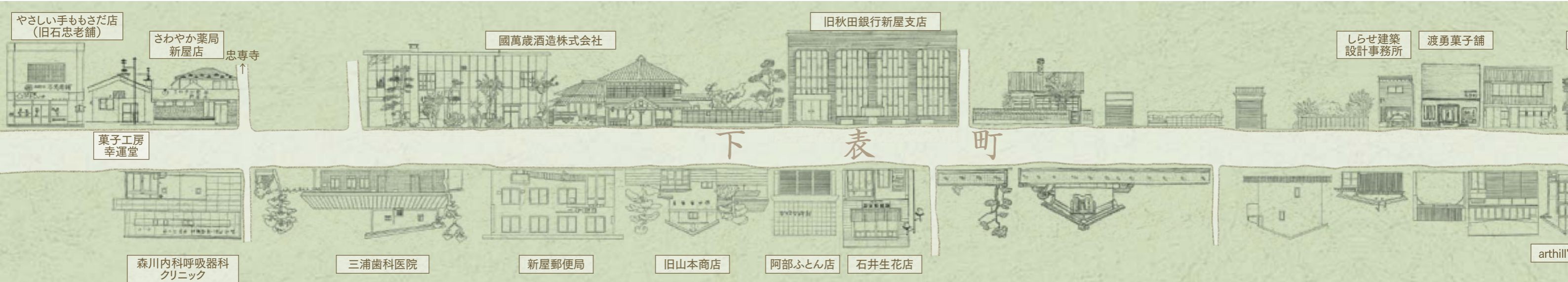


⑳ 忠専寺

正保3年(1646)に創建したとされる真宗大谷派の寺院。境内には森川源三郎の墓や、戊辰戦争で戦死した肥前武雄の佐賀藩士の墓3基があります。また本堂には、藩士たちが銃の手入れをした時にできた銃口や鉄砲の台尻の跡が残っています。

㉑ 國萬歳酒造

明治41年10月に創業。通りから見ただけでは分かりませんが、奥の深い建物で、屋敷地は1,600坪あります。現在新屋に残る唯一の酒造です。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約12分。





⑱ 高橋家住宅 (新屋温泉社長宅)

天然秋田杉をふんだんに使った住宅。主屋は約60年前に当時の新屋町の棟梁達が集まって建てたものです。敷地の奥には、80～100年前に建てられた土蔵や離れ座敷、中庭などが並びます。木材業を営む家主が自ら設置した立派な門には、樹齢250年の天然ヒバが使われています。



⑲ 忠専寺の阿彌陀如来立像

銅鑄造の立像で、両手は「来迎印」と呼ばれる「人々を救うために阿彌陀如来が迎えにくる時の印相」を結んでいます。素朴な像容で、頭部を特に大きくしたのは礼拝者に慈顔の印象を深くするためと言われています。よく見ると、確かに顔が大きい！市指定有形文化財。(普段は公開しておりません) 新屋駅から徒歩約16分。



⑳ 忠専寺

正保3年(1646)に創建したとされる真宗大谷派の寺院。境内には森川源三郎の墓や、戊辰戦争で戦死した肥前武雄の佐賀藩士の墓3基があります。また本堂には、藩士たちが銃の手入れをした時にできた銃口や鉄砲の台尻の跡が残っています。

㉑ 國萬歳酒造

明治41年10月に創業。通りから見ただけでは分かりませんが、奥の深い建物で、屋敷地は1,600坪あります。現在新屋に残る唯一の酒造です。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約12分。



【新屋の清酒】

新屋での清酒醸造の起源は明らかではありませんが、宝暦4年(1754)の文献によれば、新屋の酒屋営業者は6軒ありました(『新屋郷土誌』)。新屋の砂丘にしみこんだ水は軟水で、舌触りが柔らかく、濁り・嫌な臭い・鉄分がないため、酒造りに大変適していました。また、昔は新屋に船着場があったことから、雄物川の上流で作られた良いお米が手に入りやすかったのです。こうしてできた新屋のお酒は、飲み心地が柔らかくまろやかなことから、「秋田の女酒」と呼ばれています。

㉒ 長寿の泉

長寿の泉は、國萬歳酒造が酒造りに利用している水。地元の人が水を汲みに来る姿も見かけられます。

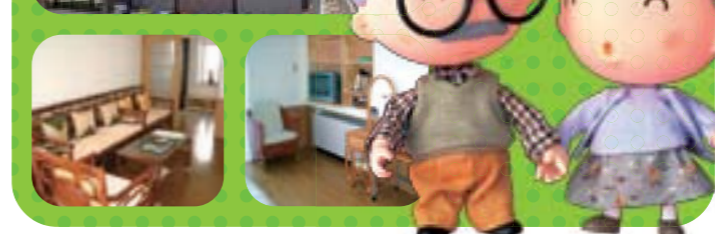


【新屋の湧水群】

新屋の土地は砂地のため地下水が豊富で、上質な水を使った醸造業が栄えました。その名残とも言える湧水が、新屋には現在4箇所残っています。湧水は水質上の問題で今は飲めませんが、地元の人には物についた泥を落とすなど、日常的に利用しています。

㉓ 美蔵(びくら) 土蔵

油屋、船問屋、酒造業、絹織物製造、金融業などを行っていた新屋の名家。新屋表町通りから見える立派な土蔵は、明治末～大正年間に建てられました。美蔵(びくら)というネーミングは、びっくりするほど美しい土蔵という意味で、ワークショップ参加者がつけてくれました。



お気軽にお問い合わせください。

お問合せ・お申し込みは

ルーミングハウス 秋田市新屋船場町6-52 TEL.018-823-1521

アクセス ●秋田駅よりバスで約25分 割山線「船場町」下車 徒歩約2分 ●近くに雄物川緑地、ゴルフ、スーパーでのお買物などを楽しめます。

㉔ ひろ建築工房 (旧高彦製麺所)

昭和15年建築と推定される町家。寄棟造2階建て、その奥に両下造の平屋建、そのまた奥には2階建土蔵が続き、新屋ではあまり見ない特徴的な構成です。昭和30年代まで新屋うどんを作る製麺所でした。国登録有形文化財。新屋駅から徒歩約14分。



㉕ 昔の匂いがする町家

細長い通り土間や妻入り屋根など、秋田の典型的な町家形式を伝えています。昔は近所の子どもたちが、通り土間を運動場のようにして駆けめぐっていました。



㉖ 仙葉善治商店

仙葉善治商店は、明治23年創業の味噌醤油醸造元。亀甲善(キッコーゼン) 醤油を醸造し、販路を県外まで伸ばして業績を拡大させました。昭和10年からしょっつるも製造・販売しています。



㉗ 栗田神社

栗田定之丞(1767～1827)を祀る神社。栗田定之丞は、18年間で300万本の松を海岸線に植えて、飛び砂から人々を救った植林家です。この植林に協力した2人が、天保3年(1832)、現在の割山町に栗田の遺愛碑と小祠を建てました。安政4年には、現在の雄物川放水路の真ん中に神社を建立しましたが、雄物川改修工事の関係で大正元年に現在地に遷座しました。市指定史跡。新屋駅から徒歩約24分。



㉘ 緑町・笹町の地藏堂

【新屋のむかしばなし】130年ほど前、塩売りの青年が地藏尊の首を奪って雄物川に捨ててしまいました。しかし翌日地藏堂に行ってみると、無いはずの首が元どおりになっていました。何度もそれを繰り返し、最後は縄でびっしり石をつけて川の深いところに投げ入れ、それ以来地藏尊は首無しとなってしまいました。しかし、ある日乗船客十数人で雄物川を渡って向こう岸に着き、船頭が人数を数えてみると、乗っていたはずの若い塩売りが見当たらず、方々探しましたが、ついにその男は行方不明となってしまいました。その後、首は信者達で修復されましたが、現在でも首と胴の石材は異なっています。



㉙ 分断された旧羽州浜街道

【雄物川改修工事とは】雄物川下流域は川の蛇行が著しく、雨が多い時には氾濫を繰り返していたため、秋田市や周辺地域の人たちは長い間水害に悩まされてきました。明治19年、水害から地域を守る対策として、日本海に放流する2kmの新しい水路を造ることにしました。改修工事は大正6年に着手し、22年の歳月をかけて、昭和13年に完成しました。新しい水路がつくられたことによって、当時の要路であった旧羽州浜街道が分断されました。

